

令和5年 本市自殺の現状について

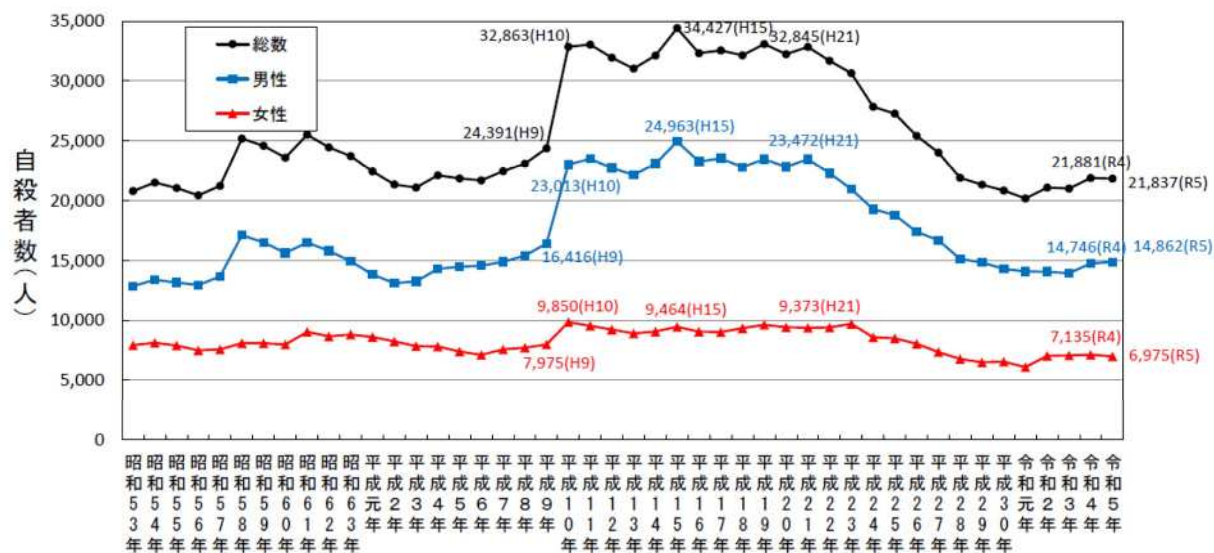
1	全国の自殺の概況	2
2	本市・埼玉県・全国の自殺死亡率推移.....	4
3	本市の自殺の現状	5

1 全国の自殺の概況

自殺者数の年次推移

○令和5年の自殺者数は21,837人で、前年と比べ44人（0.2%）減少。

○男女別にみると、男性は2年連続で増加したが、女性は4年ぶりに減少した。また、男性の自殺者数は、女性の約2.1倍となっている。

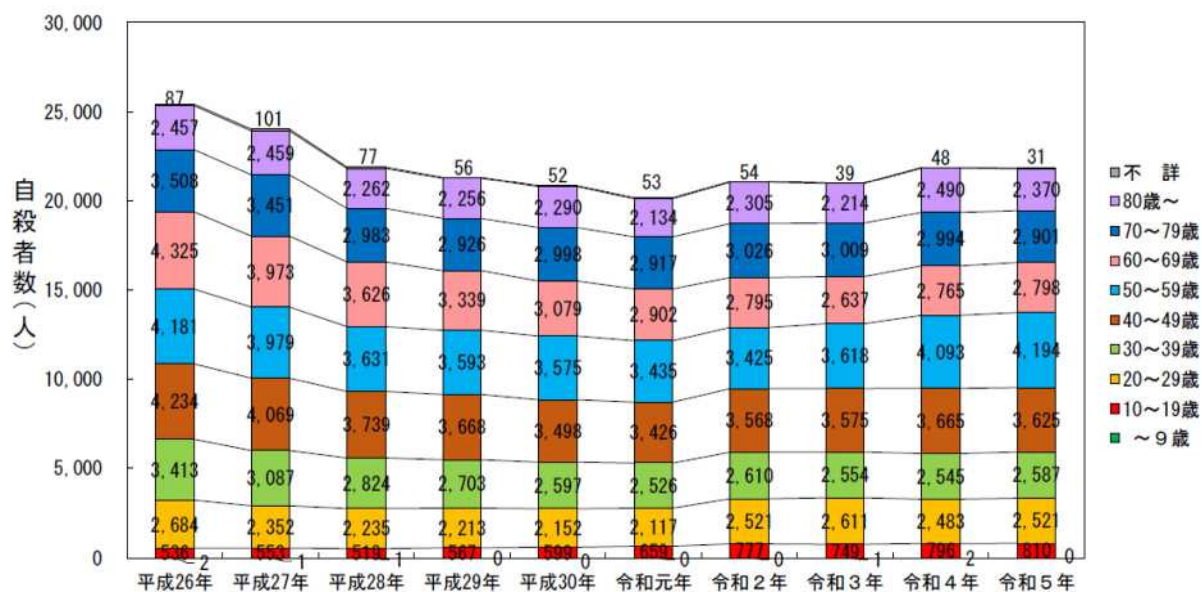


資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

年齢階級別自殺者数の年次推移

○令和5年は前年と比べ、9歳以下、40歳代、70歳代及び80歳以上が減少し、その他の年齢階級は増加した。

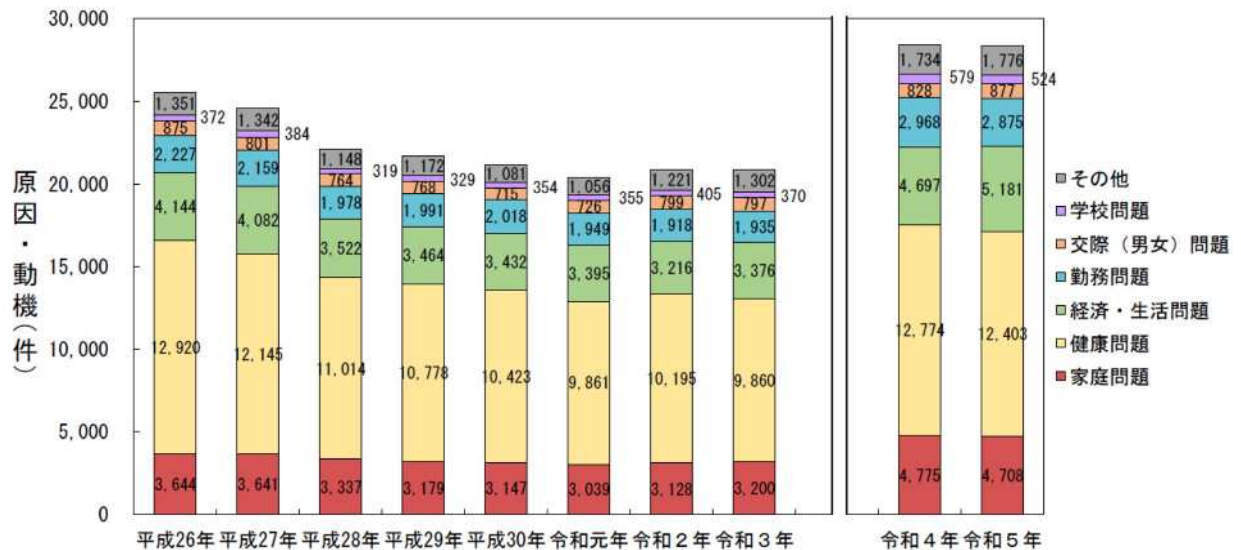
○最も減少した年齢階級は80歳以上（120人減）であり、最も増加した年齢階級は50歳代（101人増）であった。



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

自殺の原因・動機の年次推移

○令和5年は前年と比べ、経済・生活問題、交際問題及びその他の問題が増加し、家庭問題、健康問題、勤務問題及び学校問題が減少した。

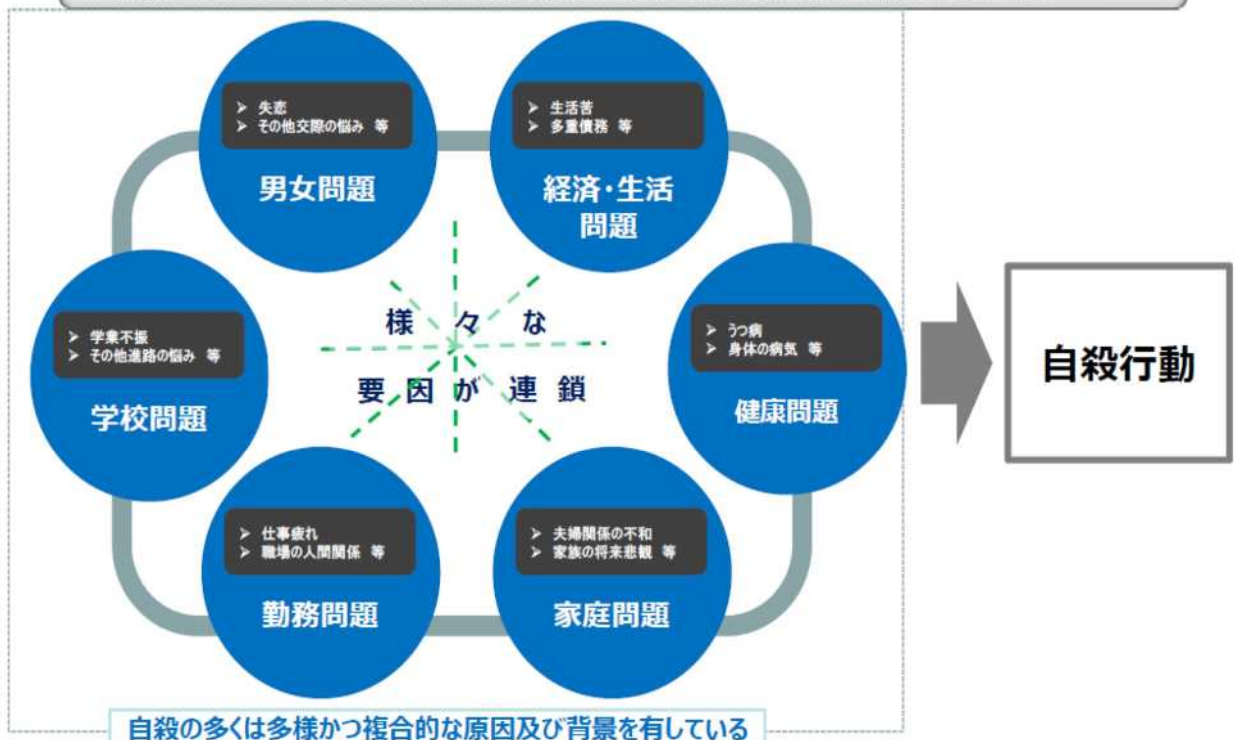


※ 自殺の原因・動機について、令和3年までは、遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としていたが、令和4年からは、家族等の証言から考えうる場合も含め、自殺者一人につき4つまで計上可能としている。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

自殺の原因・背景について

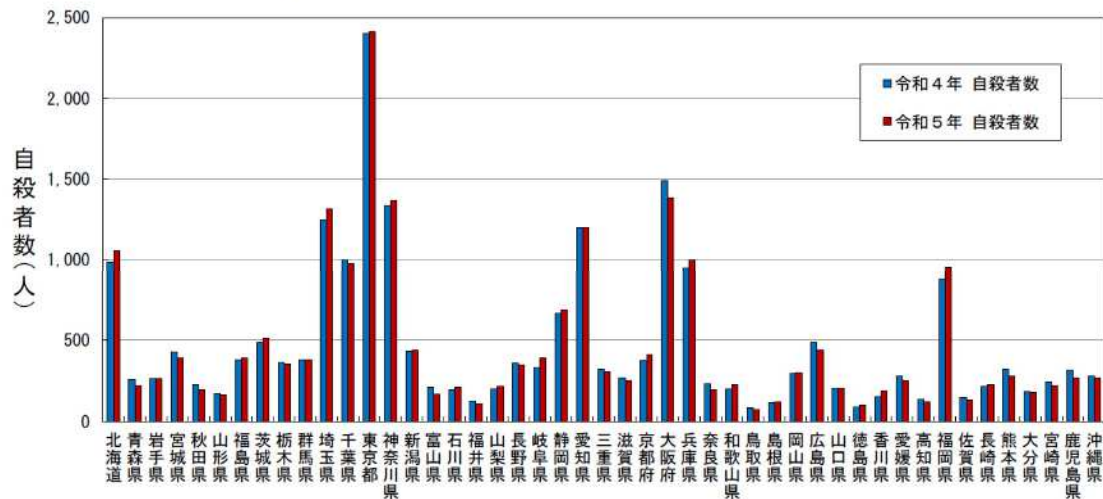
- 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。
(「経済・生活問題」や「家庭問題」等、他の問題が深刻化の中で、これらと連鎖して、うつ病等の「健康問題」が生ずる等)



令和4年及び令和5年における都道府県別(発生地)の年間自殺者数

○令和5年は前年と比べ、23都道府県で増加し、24府県で減少した。

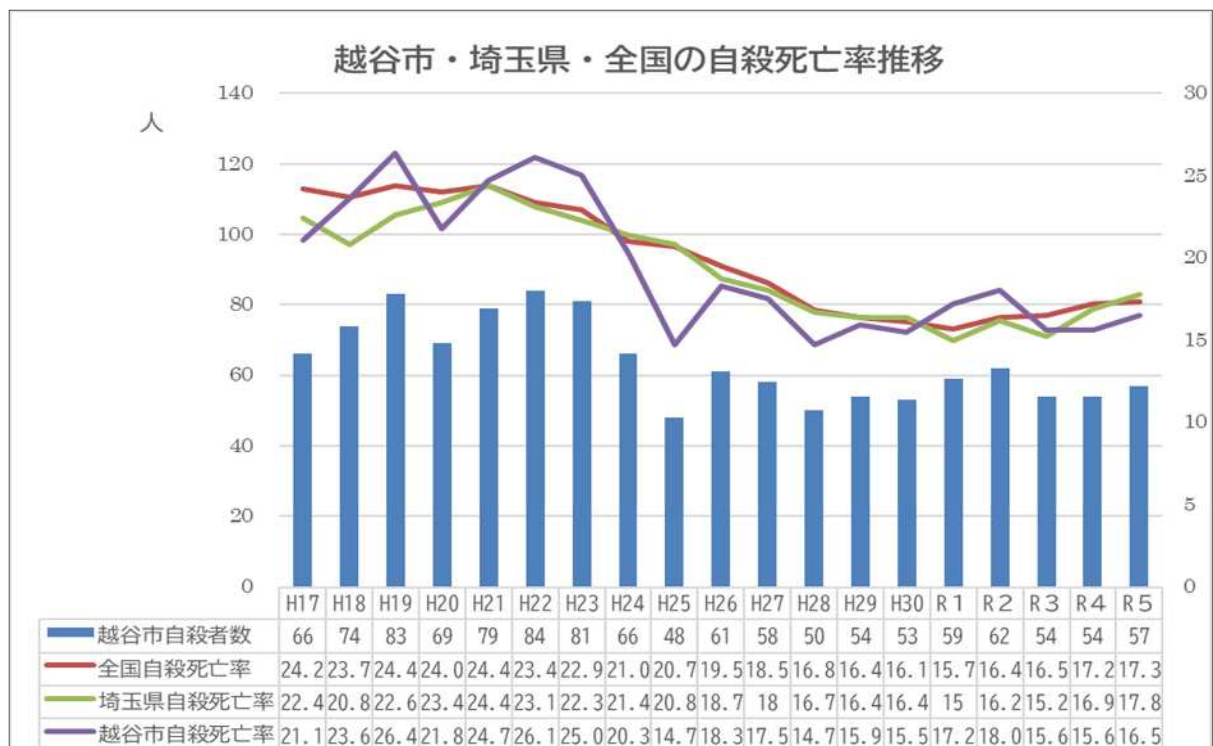
○最も増加したのは福岡県（73人増）であり、最も減少したのは大阪府（105人減）であった。



※ 自殺者数は発見された都道府県別に計上している。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

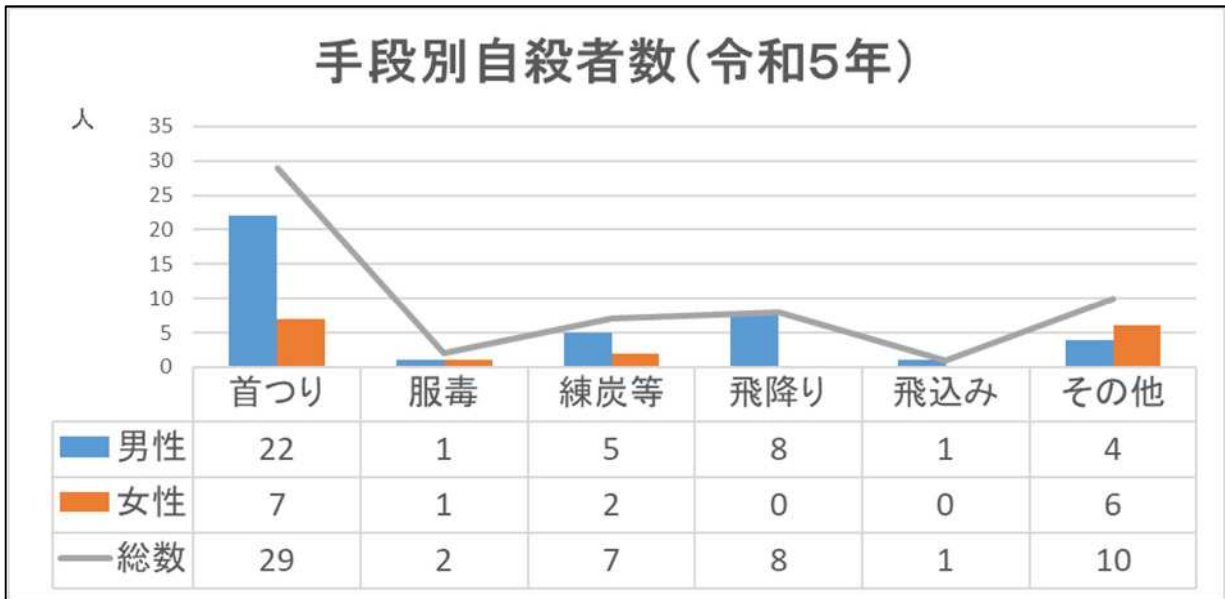
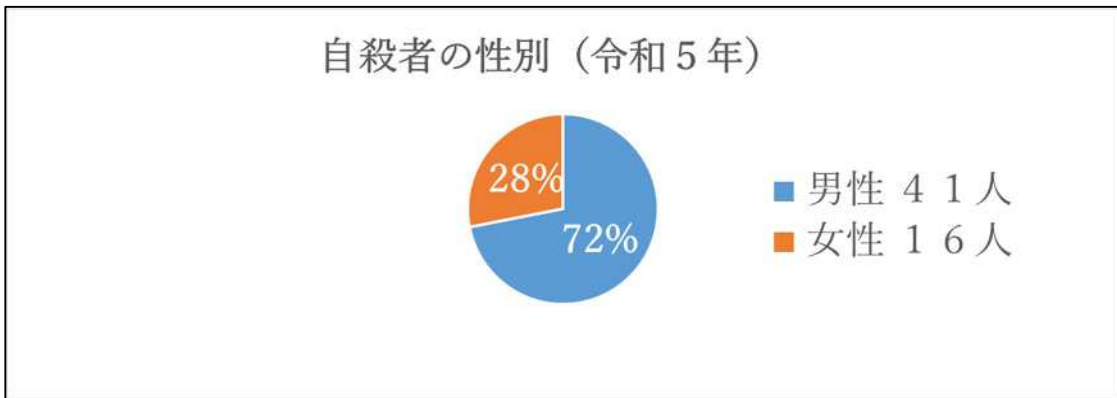
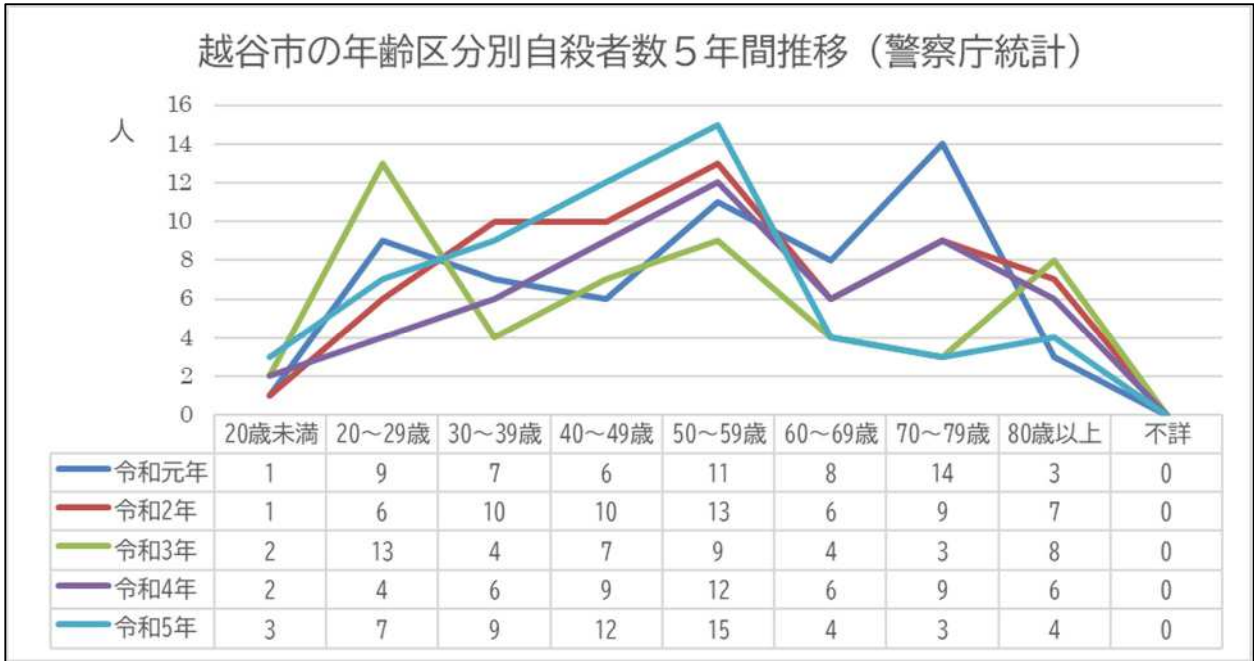
2 本市・埼玉県・全国の自殺死亡率推移



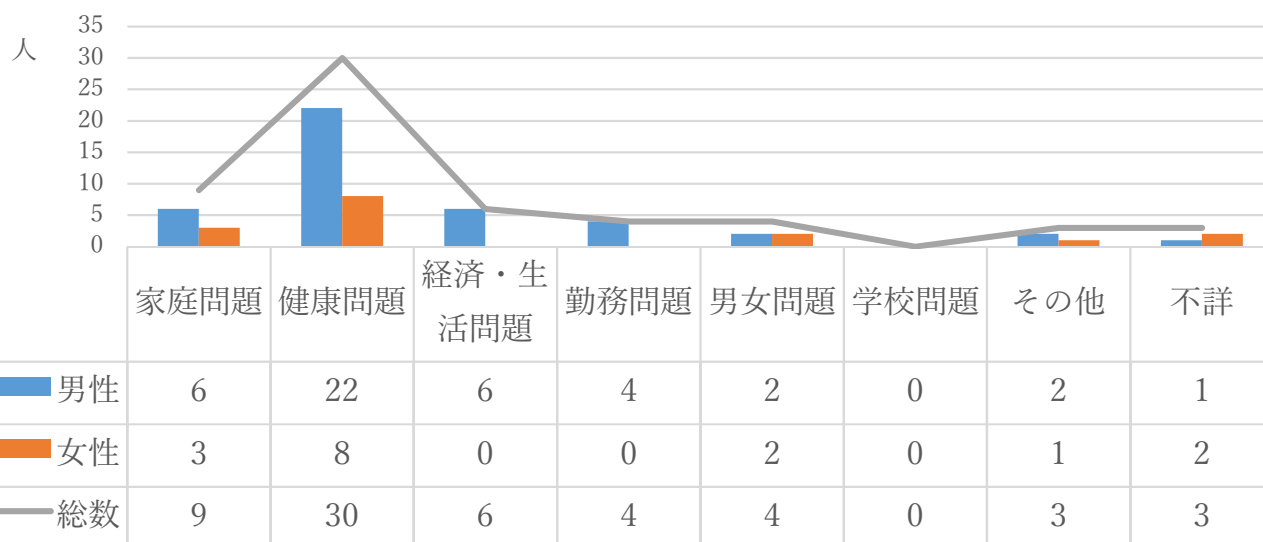
※自殺死亡率は人口10万人あたりの年間自殺者数の割合

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

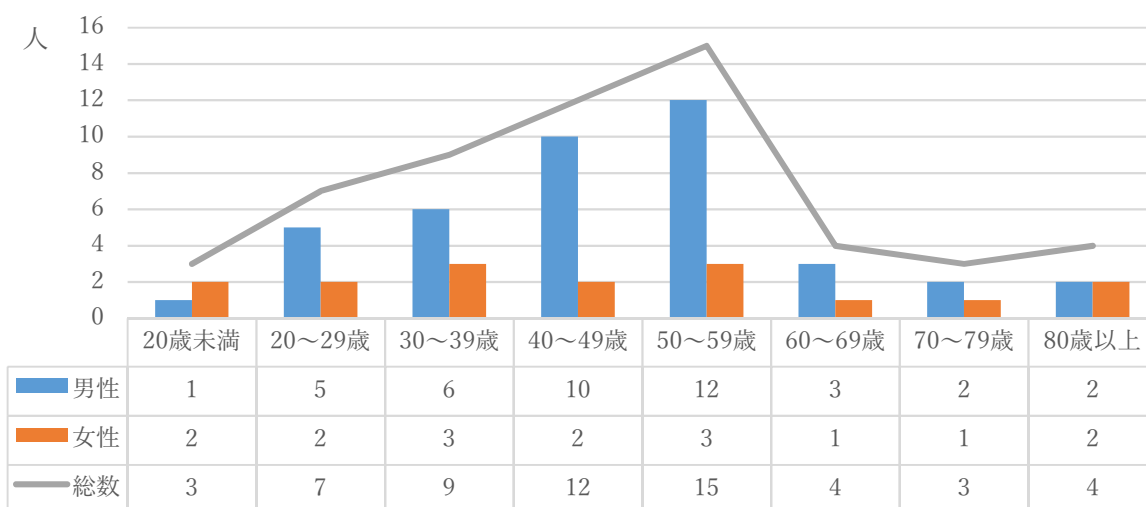
3 本市の自殺の現状



原因・動機別自殺者数(令和5年)



年齢別自殺者数(令和5年)



令和6年1～8月の自殺者数(本市暫定値)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
男	1	2	3	2	4	2	1	2	17
女	0	0	2	2	1	3	4	2	14